

タウンミーティング in 緑が丘

2018.8.2（木）19：30～21：15

緑が丘会館

○参加者 市民 24 名、その他 1 名

○タウンミーティング議事録

●緑が丘町会長あいさつ

将来に向かって、豊かで便利・安全な町を目指して、地域住民・行政・団体が一体となって行動する必要がある。忌憚のない意見を出してほしい。

●市長あいさつ

緑が丘の魅力（町会活動の冊子、緑が丘会館・第2会館くつろぎ・緑が丘神社、多彩なイベントの開催、女性役員の登用と活躍、等）

●意見交換

メインテーマ 「安全で安心して住み続けられるまちづくり」

1 消防・防災 ～緊急事態に備え、迅速に対応できるまちづくり～

①災害への対応

（緑が丘町会長）

災害に対する市としての組織体制はどうなっているのか、地域の防災組織との連携について

・今年には異常気象によって災害が起こり、鍋谷町の住民が避難していた。指定避難場所は辰口福祉会館、小学校・中学校であることは把握している。地域の防災組織として市とどう連携して対応したらいいのか？

（市長）

・ 7 月 5 日の大雨では鍋谷町に避難勧告、10 の町会に自主避難情報を出した。

大雨警報、洪水警報が発令されると警戒体制に入り危機管理課と産業建設部の一部の職員を招集する「第1次配備」、気象情報や川の水位を確認し、経過を見ながら徐々に警戒体制を強め、副市長と部長クラスの職員を招集する「2次配備」、さらに危険が高まると「3次配備」となる。市長である私もこの段階で出務し、気象情報等を分析して、避難勧告発令を判断し、同時に災害対策本部を立ち上げた。

避難勧告を発令する前に、色々と体制を整えていく。避難所の整備、避難する方の交通手段の手配、避難勧告の伝達手段を確認する。

今回、避難勧告を発令したが、解除することも大変難しい。雨の強さや川の水位が 24 時間

後にどうなるのか、36 時間後にどうなるのか見据えての解除が必要。避難されている方の健康状態も配慮し、タイミングよく正確な情報を入手していかなければならない。

- ・地元町会との連携について、避難誘導では地元の民生委員、消防団、町会役員に協力をいただいた。空き巣対策として、現地のパトロールでも連携が重要であった。
- ・避難訓練・教育も重要である。また、今回の大雨で得た教訓、現場では起こったことを地域に伝えることも考えている。

(市民)

- ・情報をどう伝えるかということについて、防災行政無線があるが、強制加入となっていない、どう考えているのか。

(市長)

- ・広報誌を通じて設置の協力を求めている。また放送が流れているが聞くことができなかった方、聞こえない方のために、ホームページ、ケーブルテレビでも周知し、広報車も出している。民生委員、自衛消防団、町の役員にも協力いただいて、高齢者や障害者宅を一軒ずつ訪問して情報を伝えている。

(市民)

- ・防災行政無線の情報を携帯電話等で聞くことができればいいと思う。

(市長)

- ・アプリ等を使って情報を出せるか研究する。土砂災害警戒情報が出たとき、携帯電話等に一齐でエリアメールが届くが、山側での警戒情報の場合でも、海側の地域にもメールが届くことがあり、このように携帯電話等に一齐に流すことは課題があるので、ひとつひとつクリアにしながら検討していきたい。

(緑が丘町会長)

- ・今回の大雨で避難所を開設したときに問題はなかったか。

(市長)

- ・避難された方におにぎり、パンを配ったが、同じものが続くと飽きてしまう。また、泊まることを想定しておらず着替えを持っていなかった。そのため、バスを出して、一旦家に戻ってもらう、スーパーに寄るという対応をした。避難所にいるとエコノミー症候群になるということで、防止の体操をしたり、普段仲の良い方でも長くいっしょにいると気まづくなってしまうので、遊具を持ってきたりして気晴らしをしてもらった。

(市民)

- ・能美市内で危険な場所は把握しているのか。

(市長)

- ・石川県が公表している情報でハザードマップを作成する。
- ・土砂災害警戒地域は里山地域、洪水では鍋谷川、八丁川、梯川付近の小杉町、大長野町が危険である。緑が丘は今の所、危険な場所はないと思っている。

(緑が丘町会長)

- ・自主防災組織で防災訓練を行い消火器や消火栓の使い方の講習会を開催しているが、現実的な被災を想定した避難訓練をどう行えばいいのかわからない。また指定避難場所は辰口中央小学校が近いが、そこへは他の町会の人もやってくる。総合的な訓練が必要だと思うが、どうしたらいいのかわからない。

(市長)

- ・市の防災訓練では、ブラインド型（実施者に事前に訓練の振興やシナリオを与えず、想定のみ与えるもの）をやっている。予期しないことに対して対応できるようにする訓練である。しかし、難しい訓練であるので、各町で同様の訓練をしてもらうことは考えていない。実際に避難所であったことをお伝えしていくことが有効だと思っている。

1 消防・防災

②大雪への対応

(緑が丘町会長)

- ・今年は大変な大雪であった。区画造成の形態上、除雪車が入っていけない・出られない箇所があり、積もった雪で住民は会社へ行けない、帰ってこられないことがあった。市の除雪対応はどんな状況だったのか。たくさんの地区から除雪要請があり、大変だったと思うが、きれいに除雪されているところもあれば、そうでないところもあった。
- ・通学路、歩道は町会でするようにと言われ自分たちで除雪したが、危険な箇所があった。町会所有の小型除雪機では歯が立たない状態であり、臨機応変に対応して欲しかった。

(市長)

- ・緑が丘町内が大変な状況であったことは確認している。37 年ぶりの大雪で、除雪が進まなかった。たくさんの方からお叱りを受け、申し訳なかったと思っている。除雪本部では、殆ど寝ないで除雪対応をしていた。職員が除雪をしたり、女性職員も消雪剤の散布作業をしたりしていた。除雪業者も寝ないで作業したが、機械の故障等があり、満足し

てもらえる除雪をすることができなかった。

- ・市では、積雪が 10 c mに達すると幹線道路、通学に使う道から優先的に除雪する。
- ・今後については、9 月議会に上程を予定しており決定事項ではないが、除雪機を増やす、オペレーターを増やす、オペレーターの技術向上、市民にご協力を頂く体制をつくっていくなど、今年を教訓に除雪体制を見直していく。

(緑が丘町会長)

- ・物見山運動公園駐車場が排雪場所となっていたが、そこまで行けなかった。周辺の公園、貯水池に捨てられないか。柵をとったりできないか。排雪場所の確保をしてほしい。

(市長)

- ・排雪場所は、雪が解けた後、石やゴミが残ってしまう。そのため公園、貯水池、田んぼを排雪場にするのは難しい。緑が丘ではどこを排雪場にできるのか、町会長と相談して決めていきたい。

(緑が丘町会長)

- ・消雪・融雪装置を大通り（町内の幹線道路）に設置できないか。水の確保が難しいというが、どう考えているか。

(市長)

- ・消雪装置には冷たい川の水ではなく、あたたかい地下水が必要である。緑が丘では地下水をなかなか確保できない。融雪装置は、温水や電気が必要であり設置に 5 千万から 1 億円、維持費として年間 130～200 万円かかる。町会や市にも負担がかかる。消雪・融雪装置ではなく機械除雪や消雪剤で対応していきたい。

(市民)

- ・排雪場所の確保について、金沢市は犀川の河川敷を使っている。手取川の河川敷を使っているかどうか。
- ・緑が丘では雪を捨てる場所が無いわけではない。捨てる方法が確立されていないだけだ。砂利の場所であれば鉄板を引くなどすれば排雪場所として利用できるのも、市の支援があるとよい。

(市長)

- ・次回からは河川敷でも捨てられるようにしたい。排雪場所がない地域では何らかの手立てをしていく。町会長と相談しながら進めていく。

(市民)

- ・緑が丘では除雪がされていないところがあった。火災が発生し消防車が入ることができなかったらどうなるのか。除雪業者との連携が必要だと思う。住宅が密集しており、火災が起こっては大変である。防災訓練をしているが、市でも対策を考えて欲しい。
- ・通学で使う道路（歩道を含む）を自分たちで何とかしようとしたが、除雪はできず、圧雪するしかなかった。児童館から小学校まで車両通行止めにして除雪する方法などあると思うので市でも対策を考えて欲しい。

(市長)

- ・除雪業者と連携を密にしたり、除雪の優先順位の見直しをしたりしていく。また、除雪車台数を増やす計画をしている。

(市民)

- ・大雪の際、埋まった消火栓を消防の方がなかなか探すことができていなかった。

(市長)

- ・消火栓の位置を地図に落としているし、車に位置がわかる装置もある。消火栓を確保する対応をしている。

2 移住・定住

①交通の利便性の向上

(緑が丘町会長)

- ・通学や通勤で白山市や小松市へ行く人が多いと思う。帰りの時間に使える交通手段がないという声をよく聞く。車を使う人が多い中、少数意見かもしれないが対策をして欲しい。アンケートを実施して、ルートの検討等をしているとのことだが、意向に沿っていないように思える。バスに乗っている人だけでなく、より多くの人にアンケートを実施して、そのアンケート結果を交通の利便性向上に反映させてほしい。

(市長)

- ・ルートやダイヤは市民アンケートをとったり、職員がバスに乗り利用者の声を聴いたりして決定している。それでもたくさんのご意見をいただいている。また、近くにバス停設置を望む声があり、それを反映すると、遠回りするルートになってしまう。
- ・今回実施するアンケートは約 4,000 枚配布する予定であり、特に高校生は全員にアンケートを配布し、できるだけ多くの人意見の聞けるようにする。アンケートが届いたらぜひ回答してほしい。

- ・金沢・小松に行くバスについては民間のバス会社が運行することになる。少ない乗車率・不採算では長続きしないのでバスに乗っていただきたい。

2 移住・定住

②働く場の確保 ③商店街の立地

(緑が丘町会長)

- ・周辺の企業誘致計画があれば教えてほしい。

(市長)

- ・企業誘致、地元の企業が好調である。J D I が閉鎖となったが、新しく J O R E D が開業する。地元の企業も好調であり、今は働く場の確保より、人手不足対策に関して協力して欲しいという声がほとんどである。市として移住定住の促進と人出不足解消をセットにした施策を平成 30 年度から始めた。
- ・また、市の工業団地が完売状態であり、工業用地の確保をしていきたい。企業は用地があるところに進出する傾向があり、用意をしておかなければならない。企業は物流・通勤の利便性が高い所を望んでいる。能美根上スマートインターチェンジ、造成中の加賀海浜産業道路付近で用地を確保したいと考えている。企業側の目線で土地利用を進めていく。

2 移住・定住

④自然豊かできれいな街並み

(緑が丘町会長)

- ・街路樹がきれいだと思い、緑が丘に引っ越してきた。もっと街並み、景観を良くして、他からいい街だなと思ってもらえるようにしたい。町会としてすべきことはするので、市の支援について教えてほしい。

(市長)

- ・市では街路樹を整備している。また、街路樹を整備した際に出る剪定枝をたい肥や炭にして、田や畑で利用する循環型の取り組みを始めている。
- ・ゴミ袋の種類を増やす予定である。40ℓと 20ℓに加えて 10ℓのヒモ付のゴミ袋をつくる。ゴミ少量化・分別化を推進して、きれいな街を目指していく。
- ・空き家政策について、空き家の活用や危険空き家の除却を特に進めていたが、今冬に輪島市で空き家の漏水が原因による断水が発生し市全体の水位が下がった。これを踏まえて、町会・町内会の協力を得て、空き家マップを作りなおしている。同時に異常がないかも確認してもらっている。個人情報上の関係上、作成したマップは公表できないが、市

として有意義に活用していく。

2 移住・定住

⑤子育て支援

(緑が丘町会長)

- ・ 緑が丘保育園周辺は送り迎えの車で混雑している。法的な規制ではないが、看板を設置して一方通行にしている。そのおかげで少しは解消したが、混雑しやすい所なので、緑が丘保育園の場所を変える事はできないのか。

(市長)

- ・ 老朽化や園児の増加があれば、移転を検討する時がくるかもしれないが、今この場で約束することはできない。一方通行や駐車場整備など、混雑解消のためできることをやっていく。

(市民)

- ・ 昔は、保育園周辺は早めに除雪されていたが、今年は遅かった。

(市長)

- ・ 実態を調査する。

(市民)

- ・ 能美市は他の市より小学校のナイター設備が充実している。小学生だけでなく社会人も使用しており、他の市にはない良さだが、撤廃する方向と聞いている。ナイター設備を売りにしていけば移住に効果があるのではないか。

(市長)

- ・ ナイター設備は老朽化してきており整備、統合をしていく予定である。使用状況を調べて、統合計画を立てている。ナイター設備を減らすだけでなく、LED化して明るくして、グラウンド面積を増やすなど残った施設の充実にも努めることとしているので、理解をしてほしい。

(緑が丘町会長)

- ・ 新辰口児童館に開設される放課後児童クラブの対象地区は？
- ・ G-Hillsにある陽翠水放課後児童クラブは緑が丘住民が利用することはできないのか。
- ・ 遊んでいるときや通学の際にこどもたちが時間を把握するためにも、公園やCC館（コミュニティセンター）に時計をつけて欲しい。

(市民)

- ・子どもたちが時間を確認して帰宅できるようになったらいいと思い、ＣＣ館の体育館に時計をつけて欲しいとお願いした。体育館は危険なため、児童館につけてもらったが、周知されていない。また、集団登校のときに集まる場所である体育館に時計を設置してほしい。

(市長)

- ・新辰口児童館の児童クラブへ通うのは９地区(上開発、辰口、倉重、出口、湯屋、三ツ屋、山田、来丸、火釜)が対象となる。緑が丘児童クラブは緑が丘、上徳山町、下徳山町が対象となる。
- ・緑が丘住民は現在陽翠水放課後児童クラブを利用出来ないが、来年度以降 10 丁目、11 丁目の方で希望があれば空き状況により受け入れていきたいと考えている。
- ・外に大きい時計を設置するには 1 機あたり約 160 万円かかり。50 万円を上限に補助制度があるが、町会の負担が高額となる。

(市民)

- ・小学校へ腕時計の着用を認めてほしいとお願いしたが、許可してもらえなかった。

(市長)

- ・子どもたちが時間を確認できる方法がないか検討する。

2 移住・定住

⑥婚活の積極的な支援

(緑が丘町会長)

- ・緑が丘で婚活イベントをした。町外からの参加が多く、町会の方の参加が少なかった。なんとか参加して欲しいが、いい方法はないか。

(市長)

- ・昨年度 2 回婚活イベント（動物園や寺井町）を実施した。今年は 3 回実施する予定である。イベント実施について市の広報、ホームページに載せている。
- ・昔はまわりからの勧めや紹介があった。石川県では縁結び ist という事業をしている。勧める人がいないと結婚しないのではないか。ぜひ、みなさんも勧めていただきたい。

3 地域福祉

①老後三大不安（貧困、孤独、病気）

（緑が丘町会長）

- ・健康年齢をのばして寿命まで健康でいたい。また、定年後はなかなか働けない。元気な高齢者でいるための施策があるのか。

（市長）

- ・我が事丸ごとの地域づくりで健常者も高齢者も障がい者も介護をしている人も安心安全で暮らしていくための施策を進めている。健康寿命を延ばすためのメニューやワンストップの相談体制をつくっていく。
- ・能美市は健康づくりでのランキングで全国 28 位である。健康診断受診率が高く、また受診後のフォローが手厚いことが厚生労働省から評価されている。
- ・高齢者が町会の運動会に出るような仕掛けをしていくことも効果があると思う。

（市民）

- ・ボランティアで 90 歳の方の買い物支援をやった。話を聞くと、買い物に不自由しているのでケアマネジャーのところに相談へいった。ヘルパーさんをつけようと思うが、見つかるまでボランティアで支援してもらえないかとお願ひされた。承諾したが、ヘルパーの担い手がいないということを実感した。これから高齢化が進み、一人暮らしの人も増え、ヘルパーさんが重要になると思うが、市として対策は考えているのか。

（市長）

- ・ヘルパーの実態を把握していないので調べる。市としてはフォローしていく体制を考えていく。たとえば介護施設で余っている車を活用して支援できないか検討している。実態を教えてもらいながら検討をすすめていく。

（市民）

- ・寺井のほうで NPO 法人が運転できない人を対象に送迎をしていると聞いた。うらやましい。200 円程度で送迎してもらえるとのこと。

（市長）

- ・おそらく泉台町を中心でおこなっている NPO えんがわの取り組みである。そのような取り組みを他の町会でもできないか検討している。送迎することに対していろいろな制約（事故が起こった時の対応など）があるので、それらをひとつひとつクリアにしていく。

●市長あいさつ

貴重な意見を聞くことができた。市が進めている施策や今後の課題解決への参考となった。ありがとうございました。